



りんご研究所ニュース 第100号①

研究所育成りんご品種たち、名前わかるかな？

「りんご研究所ニュース」ベストショット撰！

平成20年(2008年)の4月に「りんご試験場ニュース」として当時の川嶋研究調整監が執筆の主体となって発刊を開始しました。途中、第5号～11号は「りんご試験場あれやこれや」として、第12号からは現名称で15年間発行し続け、本年、めでたく100号を迎えることになりました。今回、その記念企画号の第1弾として、【「りんご研究所ニュース」ベストショット撰！】を作成しました。これまでニュースに掲載した写真、またはニュースでは使えなかった写真を集めて紹介します。

第1号トップニュース (2008年4月14日)

トップ記事は黒石の本場の外壁工事完了でした。あれから15年経った現在、外見は大きく変わっていませんが、内部は疾患だらけになりました。



【きれいになった試験場】
昨年秋から取りかかっていた3階建て本館の外壁工事が終了し、昭和43年の新築当時の明るい色がよみがえりました。



行幸啓

2014年9月25日に、天皇皇后両陛下がりんご研究所をご訪問されました。りんご研究所産の「つがる」と「彩香」をご試食され、「甘くておいしい」と感想をお話しされました。

当研究所は、今上陛下・皇后様(皇太子様時代の1997年)、高円宮妃殿下・典子様(2011年)など多くの皇室の方々にご来所頂いております。

海外要人來訪

2017年3月ブラジルサンタカタリーナ州知事が来所されました。南国のイメージがあるブラジルですが、当州はりんごの大産地です。これまでにりんご研究所では、サンタカタリーナから技術研修員を何度か受け入れておりました。また当研究所では、様々な国のりんご主産地等の首長の視察に応じて来ました。





雨にも風にも雪にも

2013年11月13日、ふじ収穫後間もなくの積雪(左上)。この年の2月には観測史上1位の積雪もありました。2018年台風21号によって多くの実が落果しました(右上)。この台風で参観デーは中止、また当時118歳の国光の大枝が折れてしまいました。昨年も台風で黒石の参観デーは中止、8月の大きな水害となった記録的豪雨で藤崎圃場は水浸し、植えたばかりの実生も大きな影響を受けました(左下)。

創立80周年記念祝賀会

2012年3月9日、りんご研究所の前身「青森県苹果試験場」が昭和6年に設立されて80年目を迎えたことを記念し、職員やOB、実習生OBらを含めた80名により盛大な祝賀会が開催されました。



りんご研ドローン空撮 ～創立90周年記念～

2021年11月、創立90周年記念誌に掲載するため、りんご研究所(黒石)を農林総研の協力のもと、ドローンで空撮しました。翌年、地味ながら記念誌を発刊できました。

コロナ禍の最中で所員の飲み会すら開催できませんでした。数年後には建物は新たに生まれ変わっていることでしょう(たぶん)。





人が途切れない相談コーナー



県南果樹部のレジェンドたち

2011年9月9日開催、県南果樹部参観デー相談コーナーにて、レジェンド2人(久保氏と村井氏)が対応(左上)。

県南果樹部を代表する研究成果、ハート型の「ジュノハート」(左)。久保氏がこの生みの親です。

2021年7月14日、「ジュノハート」の育ての親の土嶺氏、灼熱のハウス内でも爽やかに「ジュノハート」を調査しています(右上)。



知ってほしい、お勧め品種

絶賛売り出し中の赤い果皮のセイヨウナシ「リーガル・レッド・コムス」(左)、味はもちろんのこと、売りはなんといってもこのビジュアル! クリスマスにぴったりの可愛さ。12月まで貯蔵することができるのがポイント!



りんご「紅はつみ」(⇔)

品種開発部が育成して2018年に品種登録。着色が良く、収穫前落果のないこと、甘さと酸味の好バランスが特長の早生品種。収穫期は9月上旬です。これもお勧め品種です。



科学雑誌「nature」で紹介「あおり27(千雪)」(↑)

品種開発部が参画した内閣府のプロジェクトにおいて、「あおり27(千雪)」など多様な遺伝資源を材料に難褐変性に関連する遺伝子等を明らかにし、選抜に利用できるDNAマーカーを開発しました。プロジェクトPRに関する記事として2020年12月2日付け科学雑誌「nature」に掲載されました。



病害虫との葛藤

2016年に黒星病(左上)の発生が急増、発病果率80%を超える園地もみられました。黒星病に効果の高い新規薬剤と防除体系を普及することで、黒星病の大発生は終息しました。また、黒星病の感染源となる子のう胞子を含む落葉を簡易に収集できる落葉収集機(右上)を共同研究で完成させました。令和4年より市販化されており、手作業の約30倍の作業能率で収集することができます。

毎年恒例、重装備摘果(↑)

害虫試験の際や飼育時の餌として使用されるリンゴ幼果を毎年7月上旬に収穫しています。殺虫剤無農薬圃場から収穫するため、作業を手伝ってくれる圃場員の方々は服に虫がつかないように怪しげな重装備で作業してくれています。



見つめるラスカル(⇐)

2022年10月26日県南果樹部にて。ブドウの枝にぶら下げたリンゴの下には罠(釘を打ち付けたベニヤ板)があるのでアライグマは近寄れません。結局残念そうに見つめた後に退散しました。



弘前南高校 SSH 実習(↑)

2019年7月23日、先進的な理数教育を実施するスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている弘前南高校 SSH 実習を受け入れ、果実分析やDNA抽出を体験してもらいました。



サイエンス体験ツアー(↑)

2011年8月2日に県主催で行われたイベント。子供たちを対象に「りんごにいる虫や病気を探してみよう」というテーマでりんごを観察してもらいました。